

通信小海

幼子と老人

牧師 水草 修治



昨年のクリスマスも近くの老人ホームに、教会の人たちで讃美歌を歌いに行った。今回は人形劇もして、お年よりたちに喜んでいただくことができて嬉しかった。教会の人たちという中には、小さな子どもたちも含まれている。

三年前のクリスマス、子どもたちは連れて行かず大人だけで、「もりびとこぞりて」「きよしこの夜」を歌ったのだが、お年よりたちはしーんと静まったままで、笑顔がまったく見えなかった。こちらでも、なんだか緊張してしまつて後味の悪いことであつた。それ以来

今月の御言葉
「見てごらんさい。
神のいつくしみときびしさを。」

ローマ十二十二

必ず小さな子どもたちも連れて行くことにしたのである。

生後四十日のイエスは、養父ヨセフ、母マリヤに連れられて神殿に礼拝に出かけた。すると、そこに老シメオンと老アンナがいて、イエスを見出すと抱きかかえて聖霊に満たされて、讃美歌をつたい預言をしたと聖書に記録されている。

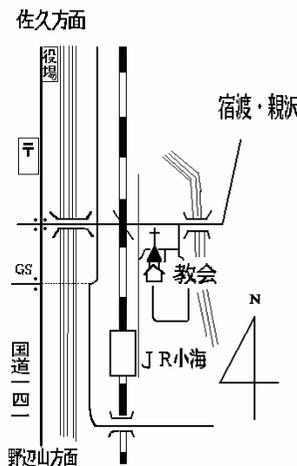
「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです!」と。

たくさんの人々がいた中で、老いたシメオンと老いたアンナだけが、赤ん坊のイエスを見て、このお方はメシヤであると悟つたのはどういふわけだろうが。神はなぜこの老人たちをお選びになつたのだろう。

この聖書箇所を味わい、あの老人ホームでの経験を重ね合わせて、教えられるのは、

日本同盟基督教団小海キリスト教会 牧師 水草修治
会堂・牧師館 南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七
千三八四一一 二二 二六七九二四七七六
カンパ宛先〒振替005300 61683

見晴台の教会へどうぞ



集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時四五分

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後八時から九時

水曜日 祈り会 午前十時半と午後七時半

*海尻・川上で毎月家庭集会あり。

*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

幼子と老人との近しさということである。労働年齢のおとなは、どんな仕事ができてどれだけ稼ぐという機能価値に心を支配されて、「忙しい忙しい」といいながら生活をしている。機能価値からすると働がなく、稼がないとなれば無価値だということになる。老いることの不安と焦りの原因の一つは、若いときのように仕事ができなくなってしまうということにある。

お年寄りが幼子たちと近しさを感じるというのは、幼子たちは何ができる・いくら稼ぐという機能価値によっては生かされていないからである。幼子たちは、そこに存在することが喜ばれることによって生きていく。機能価値でなく存在価値によって生きていく。加齢とともに、次々に視力・聴力・腕力・気力・体力等は失われていく。その代わりに、いのちの主である創造主が、何の役にも立たなくなった自分という小さな者が存在していることを喜んでいてくださることを悟ることができれば、なんと幸いなことか。幼子との交わりは、その悟りのよすがとなる。

そして、幼子にとっても、おじいちゃん

おばあちゃんの存在はたいせつなのである。幼子が「ねえ、母さん」「ねえ、父さん」と来ても、父親・母親はつい「今は忙しいからあとで。」と言って幼子をないがしろにしてしまう。しかし、仕事という役割を失ったお年寄りに、神様は時間という賜物を託してくださっている。手をつないでゆっくり散歩をしてくれるおじいちゃん、こたつでニコニコ話を聞いてくれるおばあちゃんの存在は、幼子にとつての安息の場なのである。子どもはそこで何ができるか何ができないかということとは関係なく、自分の存在そのものが喜ばれているという安心を得る。この安心はその人格にとつて、生涯の宝となる。

だから、お年寄りは機能価値について若い人といつまでも競うよりも、存在価値に目覚めることがたいせつである。働くことも大事だが、存在していることがそれ以上に価値がある。また、老人ホームと保育園の交流ということも、とても大切なことである。



海尻井出博彦さんち

で家庭集会スタート

毎月第二・第四木曜夜七時半から九時聖書を読む会をしています。ご一報くださってお越しください。
96 2534

古毛布が必要です

信州から野宿者支援

滅茶苦茶に寒い冬、野宿する人々のために古毛布を寄付してください。

＊未使用切手・未使用割り箸募集中

山谷農場事務局（藤田 寛）

小海町芦谷ヒルサイドコーポ一 二号室

毎週金曜・土曜はおります。

電話 090・1436・6334

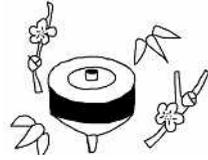
〒777-042・786・2088

メール nyoro@beige.ocn.ne.jp

カンパニ振替 一四 四五三七九六

時は回りつつ

進む



ついで神は、「光る物は天の大空にあつて、昼と夜とを区別せよ。しるしのため、季節のため、日のため、年のために、役立て。天の大空で光る物となり、地上を照らせ。」と仰せられた。するとそのようになつた。(創世記 一・二十四、十五)

正月を迎えると、私たちは「さあ、今年こそは！」と、昨年を実行できなかった、あのことを思い浮かべつつ決意を新たにするものである。そのように、毎年時がめぐってきて、やり直しがきくということはなんとありがたい慰めであろうか。時は、ぐるぐる回っている。それは、創造主が月・星・太陽という天体に回転運

動を「季節のため、日のため、年のために、役立て」るためにお定めになつたからである。地球は自転して日を刻み、太陽のまわりを三六五日かけて公転して年を刻む。そして地軸が傾けられていることの作用が加わつて春夏秋冬という季節が、繰り返し訪れるのである。

しかし、聖書は、時はただ回っているのではなく、始まりと終わりがあるのだとも告げている。この宇宙の歴史にも始まりがあり、また終わりもある。また私たち個人個人の歴史にも始まりがあり、終わりがある。やり直しはきかない。そういう意味では、時はまっすぐに進んでいく。直線的なのである。

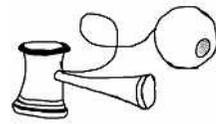
始まりがあり、終わりがある時のなかには繰り返しはない。今日という日は、二度とやつてこない。この一瞬が過ぎて行けばもう二度とは帰つてこないのである。終わりに向かつてまっしぐらに進む時であるから、惰性によつて生きるのではなく、「この今日という日を力一杯に生きる者でありたい。」だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に十分あります。」と主はおっしゃる。

歴史は一回限り、そして、人生は一回限りで、消しゴムで消してやり直すことはできない。だから、緊張感を持って、この新しい年を意義ある年としたいと思う。しかし、同時に、昨年の反省に立つて、成し遂げられなかつた、あのことを、今度こそやり直したいと思う。

時が初めから終わりに向かつて直線的に進んでいくということと、時が繰り返し繰り返しめぐつてくるということと、これら時の二つの性質を思うとき、筆者は、「見よ。神の慈しみと厳しさを」というみことばを思い出す。一回限りの人生、一回限りの二年だから、後悔しないように神を恐れて生き抜きたいと思う。神は、私たちがこの世においてなしたことをすべて計り審く審判者でいらつしやるから。しかし、私たちは後悔ばかりして生きている弱い罪人である。神は父としての慈しみ深い眼差しをもって、「人生やり直しがきくん。くよくよしていないで、さあもう一度やつてらん。」とおっしゃつてくださるのである。

神をおそれ祝福

を得よ!



幸いなことよ。すべて主を恐れ、
主の道を歩む者は。

あなたは、自分の手の勤労の実を食べると
き、幸福で、しあわせであろう。

あなたの妻は、あなたの家の奥にいて、

豊かに実を結ぶぶどうの木のようにだ。

あなたの子らは、あなたの食卓を囲んで、

オリブの木を囲む若木のようにだ。

見よ。主を恐れる人は、確かに、このよう
に祝福を受ける。

主はシオンからあなたを祝福される。

あなたは、いのちの日の限り、エルサレム
の繁栄を見よ。

あなたの子らの子たちを見よ。

イスラエルの上に平和があるように。

詩篇一二八篇

かつて国際連盟の会議で、某国の代表
が「わが国は、神以外の何者をも恐れな
いのであります。」と胸を張った。すると、
日本代表がさらに胸を張って「わが国は、
神をも恐れないのであります。」と言った
ところ、議場は失笑に包まれてしまった。
神をも恐れることも知らないというので
はサル並だ、と。

日本代表が念頭に置く「神」というの
は、せいぜい狐や狸や人を祭り上げた作
り物の「神」にすぎなかったので恐れるに
足りないといったのであろうが、世界の
代表たちにとっての神とは、万物の創造
主なのであった。創造主をおそれない
というのは、滑稽以外の何者でもない。

冒頭の旧約詩は、万物の主をおそれる
者の人生全般にわたる幸いが高らかに歌
っている。一つは、勤労の祝福である。

「あなたは、自分の手の勤労の実を食べ
るとき、幸福で、しあわせであろう。」健
康が守られ額に汗して働き、収入を得て
生活できるのは幸いなことである。健康
も仕事も、決して当たり前のことではな
く、神の恵みなのだ。

主をおそれる人の妻も祝福される。「あな
たの妻はあなたの家の奥にいて、豊かに実を
結ぶぶどうの木のようにだ」と。甘いジュース
をたっぷり含んだ巨峰のような祝福。また、
主をおそれる人の子どもたちもまた、祝福さ
れる。「あなたの子らは、あなたの食卓を囲ん
で、オリブの木を囲む若木のようにだ。」賑や
かで楽しい食卓が目につかぶ。オリブの若
木のようにすくすくと育ち、頼もしい子ども
たちが、楽しくもりもりと食事をしているあ
りさまである。

結びに、旧約で「シオン」「エルサレム」と
表現されたことばは、新約の時代は「教会」
と読み替えられる。とすると、続く節は次の
ようになる。「主は教会からあなたを祝福され
る。あなたは、いのちの日の限り、教会の繁
栄を見よ。」となる。主なる神は、教会を通
して祝福と繁栄を教会に連なる人々の家庭
に注いでくださる。その幸いは、一代二代に
とどまらず、子々孫々にまで及ぶのである。
「あなたの子らの子たちを見よ。」とある。あ
なたにも、主をおそれる幸いな人生を得て欲
しい。